

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	GRACE GARDEN SCHOOL			
○保護者評価実施期間	2025年1月23日		～	2025年2月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	2025年1月23日		～	2025年2月3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月25日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・室内が明るく、活動の用途に合わせて仕切りを開閉させる事が出来る。 ・個々の特性が、発揮できて、集中した活動になっている。 ・広い敷地に、事業所のみなので園庭が広く、思う存分に球技や自転車の練習、スネークボード・スケートボード等、色々な活動を楽しめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に合わせ本人の意思を尊重した活動にしている。 ・毎日の宿題を自ら取り組めるよう環境を整え意識づける。 ・工作活動・テーブルゲーム・ごっこ遊びなどを充実させる。 ・危険予知に繋がるように説明・見守り・達成感を伝える。 ・季節に合わせて、広い敷地内を散歩したり、桜の下での昼食(ピクニック)虫取りなど自然の変化を感じることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動が、将来に繋がるように、学べる活動にする。 ・活動が充実できるように、職員間で共有し満足度の高い支援を提供する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりが出来る。 ・個々の特性を尊重し、社会性が育まれるよう環境を整えて活動を行っている。 ・関連機関や地域との連携を図っている。 ・地域の子どもたちや保護者とも行事を企画し参加して頂き活動を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の意思を常に尊重する。 ・意思を確認して自己決定の機会を増やす。 ・小学校1年生～高校生3年生と幅広い年齢の利用があるので様子を見ながら活動への参加を促し関わりを持たせる。 ・自分で遊びや活動を選び楽しむように、敏速な対応や準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の意思確認を行い、特性を大切にしている。 ・言葉だけでなく個々の特性などからも思いを汲み取れるように気付きを学び、職員間で共有する。 ・異年齢での活動を工夫し、社会性を育てる。 ・地域との活動を定期的に行えるように計画をする。 ・読書サークル等職員参加ボランティア活動を充実させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・専門資格を持った職員がいる。(保育士・看護師等) ・パート職員・専属の運転手がいる。 ・利用者のニーズに応じて対応ができる。 ・医療ケア児の受け入れ体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な視点から関わりを持ち、安心して利用が出来る。 ・利用者のニーズに合わせて幅広い活動が出来る。 ・家庭(保護者)に応じて、柔軟な対応をする。 ・毎日の連絡帳や送迎時の保護者と関わりを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性を高めていくための研修を充実させる。 ・ニーズに応じて活動が充実できるように、準備をする。 ・保護者会や行事、日々の支援を通して信頼関係を築く。 ・できる限り柔軟な対応で保護者の困り観を支える。 ・医療ケア児の受入に必要な研修を充実させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・広い敷地なので除草作業を行う。 ・雨天時の水たまり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地が広い。 ・男性職員が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の就労事業所と連携して作業をする。 ・水たまりの補修が直ぐに出来るように土砂を準備する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会が出来るように計画をする。 ・行事の際に、保護者との関わる時間を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている保護者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を作り、日程を決める。 ・親睦が図れるように企画を考える。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		GRACE GARDEN SCHOOL				公表日	令和 7 年 2 月 28 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指導訓練室を2分割できるようにしています。また、静養空間も確保しています。雨天時に室内で過ごす為の提案及び話し合い等を取り入れて取り組んでいます。	その日の子どもたちに応じて天気等も考慮し、工夫しているが、スペース的に狭いのではと感じストレスがあると思われます。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		看護師の配置をしています。また、休業日や長期休暇時、職員数を増員しています。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		身障者用のトイレを設置しています。また、洋式トイレに子ども用便座を併設しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃・消毒等を行っています。また、パーティションを利用し、2分割できるようにしています。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養空間を確保し、活動に合わせてパーティション等を活用しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務改善委員会に全ての職員が参加できるよう配慮しています。参加できなかった職員に対しても記録を閲覧して頂くことで共有を図っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月のご利用予定表に、自由に意見等を記述できるスペースを設けています。また、ご意見等については、共有し、改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々、職員会議を開催し、業務改善に努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、受審を検討いたします。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内ではインターネット等を使用してオンライン研修を実施したり、外部研修なども積極的に参加しています。		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		南恵会のホームページにある【施設案内（各事業所）→Grace Garden School児童】にて公開しています。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日頃の顔合わせにより、自宅での様子や状況、ニーズを把握し、計画に反映するように目指して作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		子どもの支援に関わる職員が参加し、検討会議を開催しています。また、閲覧して共有を図っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間での共有を図り、日々の支援を行っています。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		県より示されているアセスメントツールを活用し、子ども達の適応行動の状況把握を引き続きしっかりと行っています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画を作成するにあたり、ガイドラインで示されている項目を確認し、支援内容を検討しています。また、子ども一人ひとりに合わせて作成しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		調理実習で自分達の昼食作りに取り組んだり、その献立をみんなで事前に会議するなど、グレースの特色を生かしたプログラムの立案をしています。		

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子ども達の自発的な活動を取り入れていません。また、季節の行事・海遊び・BBQ、釣り等の実施による体験型の活動を盛り込んでいます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの障害種別や障害特性に応じ、計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		業務日誌には利用者別の記載欄も設けており、すべての職員が目を通せるようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		業務日誌には利用者別の記載欄も設けており、すべての職員が目を通せるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の業務日誌に個別に記録しています。また、職員間での情報の共有化を図っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年に2回、また必要に応じて適宜計画の見直しの必要性について判断しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		ガイドラインの基本活動である「自立支援のための活動」や「創作活動」「地域交流」等を組み合わせ、季節の花を育成したり、スポーツ活動や社会見学等を行っています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもの意思を確認し、自己決定に繋がる支援を行っています。	確認ツールを増やすことと自己決定できる活動の工夫。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議には児童発達支援管理者のほか、児童指導員等も参加できるよう配慮しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		連携が図れる体制を整え、見学等も受け入れ、情報共有を図っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		お迎え時や学校行事に参加し、担任の先生等と連絡調整を行っています。また、クラスのお便り等をこどもの同意のもと、確認しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		常日頃から顔が見える関係性を築き情報を共有できるよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		障害福祉サービス事業所に移行された方に関しては、実際に足を運んだりすることで情報提供を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		常日頃から顔が見える関係性を築き情報を共有できるよう努めています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		現在、実施できていません。	今後、どのような活動ができるか、協議・検討します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		昨年度より、こども部会の会長職を務めています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時などこまめに保護者と顔を合わせることで、日頃から状況を伝え合うようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		現在、実施できていません。	保護者ニーズを捉え、実施に向け協議・検討します。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項等について、説明を行うと同時に、運営規定や重要事項証明書の掲示を玄関にいつでも閲覧できるようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		連絡帳を用いたり、送迎時等こまめに保護者と顔を合わせることで、こどもの実態や保護者ニーズ等を踏まえています。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を確認頂きながら説明を行い、同意を得て署名を頂いています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳を用いたり、送迎時等こまめに保護者と顔を合わすことで、悩みなどを相談しやすい環境をつくりを行っています。また、利用している児童だけでなく兄弟も参加できる行事も企画しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		季節ごとの行事の際、保護者同士が交流できるように企画を行っています。また、兄弟も参加できるように企画しています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情相談制度について、整備され、契約時や事業所内ポスターを掲示することで周知を図っています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の連絡帳に記載したり、ご案内を発信しています。また、今後はホームページ等も利用し、発信していきたいと考えています。	今後は、機関紙の発行を検討したいと思います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		法人内の個人情報保護規程に基づき対応しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		一人ひとりの障害特性を理解し、言語のみに頼らないコミュニケーション方法について、模索しながら個別に対応を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		夏休みの期間に、ミニ夏祭りを企画・開催し、多くの地域の子ども達や保護者の来場を頂き、子ども食堂も同時に開催しました。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		玄関に閲覧できるようファイリングをしています。また、夏休み等の長期休業日に、実施しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		策定しています。夏休みなどの長期休暇に年2回実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に保護者への聞き取りを行い、アセスメント表に記載し、職員間で共有を図っています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		利用開始時に保護者への聞き取りを行い、食物アレルギーについて法人の管理栄養士も含めた情報共有を行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成し、研修等を行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		玄関に閲覧できるようファイリングをしています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、職員共有を図りながら、意識の向上に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		eラーニング等を活用し、研修等に積極的に参加しています。また、人権侵害防止チェックリストを活用し、人権侵害防止ゼロの誓いにも署名を行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行うケースが生じた場合は、要件や代替性がないか確認を行う検討会議を開くなどの体制を整えています。		